

広報ワーキングの活動

【目 次】

活動報告概要	．．．．．	P 2
1. 2021年度のイベント実施概要	．．．．．	P 4
2. 広報活動の実施結果	．．．．．	P 8
3. 2022年度の広報活動方針	．．．．．	P 16
4. 協議会のHP・SNS等の運営方針	．．．．．	P 28

活動報告概要

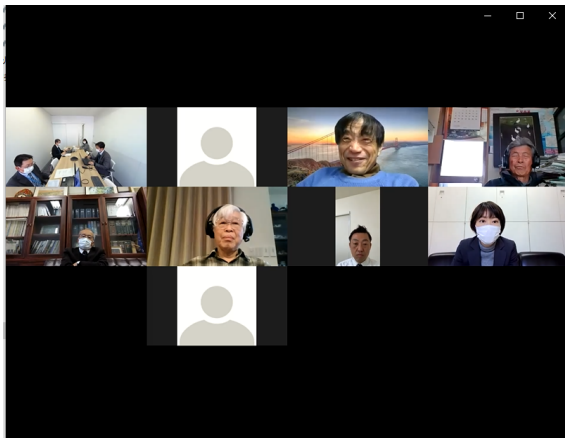
- 第51回協議会(2021年2月17日)以降、広報ワーキングを1回、イベント実行委員会を3回、実施しました。
- 広報ワーキングおよびイベント実行委員会では、協議会の活動の広報やイベントの具体的な実施内容等について協議しました。

会議区分	日時	場所
第1回2021年度イベント実行委員会※	2021年 3月18日	WEB開催
第2回2021年度イベント実行委員会※	2021年 6月 4日	
第3回2021年度イベント実行委員会※	2021年 12月15日	
第17回広報ワーキング	2022年 2月 1日	

※維持管理・環境管理専門委員会と合同開催

イベント区分	日時	イベント名
協議会主催イベント	2021年4月3日	荒川大自然ツアー
協議会主催イベント	2021年10月23日	秋イベント「荒川クリーン大作戦」

イベント区分	日時	イベント名
自治体主催イベント	2021年11月 6日	上尾市環境パネル展



第17回広報WG
(2021年2月1日)



秋イベント
(2021年10月23日)



上尾市環境パネル展
(2021年11月6日)

活動報告概要

主な報告・提案・発議事項

区分	内容	参照ページ
報告	・ 前回協議会で承認された内容で、イベントを実施しました。しかしながら、コロナ禍のため主催イベント・自治体イベントは中止となったものがあります。 ・ 広報活動として、中池の看板やボランティアの募集、協議会HP・パンフレットの公開および学会誌への発表を行いました。	P5-7：イベント（荒川大自然ツアー、秋イベント、上尾市環境パネル展） P9-15：広報活動
提案	・ 今後の広報WGの体制として、広報WGとイベント実行委員会の一歩化を提案します。 ・ 2022年度の広報活動計画(案)を提案します。	P23-24：今後の広報WGの体制 P25：2022年度のイベント計画（案） P26：今後の活動周知の取組について
発議	・ 「事業の発展的な持続」のためには、本事業の社会的意義をわかりやすくアピールして、広く関心を集めることが必要となります。 ・ 協議会のHP・SNS等の運営方針について、協議会の方針を検討することが必要となります。	P27：自然再生事業の社会的意義のアピールについて P29-31：協議会のHP・SNS等の運営方針

1. 2021年度のイベント実施概要

1. 荒川大自然ツアー実施状況

- 荒川中流域のエコロジカルネットワーク形成の促進を目的として、令和3年4月3日（土）に江川サクラソウトラスト地・太郎右衛門自然再生地・三ツ又沼ビオトープの3地区合同観察会『荒川大自然ツアー』を実施しました。
- 実施したアンケートの結果から、参加者の年齢層が高いこと、当該地区の認知度が低いことわかり、今後のイベント企画に向けた課題が明らかになりました。

項目		内容
企画	日時	4月3日（土） 9:00～13:00
	名称	荒川大自然ツアー
	目的	・身近にある自然を地元の人に知って頂く。 ・エコロジカルネットワークに関わる活動の推進につなげる。
	内容・場所	①江川サクラソウトラスト地での観察 ②太郎右衛門自然再生地での観察 ③三ツ又沼ビオトープでの観察
	人数	18名
	参加費	100円/人（保険代など）
	広報	荒上HP、チラシ（東京デザイン専門学校 デザイン）、自治体広報誌
	物品	特に無し
収支計画	収入	1,750円
	支出	1,350円
	計	+400円
感染症対策	・受付時に検温、マスクの着用、手指の消毒をお願い。 ・マイクロバスは、窓を開口し、換気しながら運行。 ・参加者が密にならないように誘導、注意喚起する。	
その他	移動はマイクロバス（25人）	



参加者集合写真



太郎右衛門自然再生地（中池）



江川サクラソウトラスト地



三ツ又沼ビオトープ

2. 秋イベント実施状況

- 10月23日（土）に、東京デザイン専門学校との連携協働企画で、外来植物の駆除と駆除した植物を活用した草木染めの体験イベント「荒川クリーン大作戦」を実施しました。参加者は11人でした。
 - 9月30日まで埼玉県に、緊急事態宣言が発令されていたことから広報開始が10月1日からの実施となったこともあり、通常より広報期間が短かったです。余裕を持った広報を行うための事前準備を行い、様々な媒体を用いた広報を行っていくことが必要です。
 - イベントタイトル「荒川クリーン大作戦」からゴミ拾いと勘違いされ、敬遠された可能性があります。そのため、今後は企画提案段階で東京デザイン専門学校と協議を重ね、一方的に受け入れるだけでなくよりよい内容となるよう対話を重ねていくことが必要です。
- 協議会内外の関係者の協力として、東京デザイン専門学校による企画デザイン、桶川西高校の放送部による司会や科学部による移動水族館の展示、TVチャンピオン昆虫王の長畑委員と楽しむ昆虫観察の他、荒川の自然に親しむ草花観察などを体験していただきました。
- 一般参加者は、外来植物の除去活動を楽しみながら参加している様子が見られ、こうした取組にも魅力を感じていただけたようでした。

項目	内容
日時	10月23日（土） 10:00~12:30
タイトル	東京デザイン専門学校連携企画 「荒川クリーン大作戦 ～侵略者からたろえもんを守ろう!～」
目的	一般や親子を対象として自然再生地の認知度の拡大や新たな担い手の確保を目指す
内容	・東京デザイン専門学校との連携協働により、外来植物の駆除と駆除した植物を活用した草木染めの体験 ・桶川西高校科学部による移動水族館の展示や、TVチャンピオン昆虫王の長畑委員と楽しむ昆虫観察の他、荒川の自然に親しむ草花観察などを体験
募集人数	50人
参加費	500円（サイサン助成金を使用せず参加費でまかなう）
広報	東京デザイン専門学校作成のチラシ 広報誌：自治体広報誌10月号（桶川市）
	SNS ・荒上HP・Twitter ・協議会Facebook ・メーリングリスト・HP（埼玉県経営者協会） ・WEB掲示板 （EIC ネット、環境らしんばん、環境展望台、環境情報ステーション Pico、CANPAN、NGO Network JAPAN、環境市民、smiley Mom）
	新聞 ・朝日新聞（マリオン）15日掲載 ・読売新聞・埼玉県版Saturdayさいたまレジャーコーナー 16日掲載 ・埼玉新聞 17日掲載
	チラシ配付先 ・アリオ上尾（チラシ220部及びポスター設置） ・上尾市（上尾市役所、児童館アッピーランド、上尾市児童館こどもの城、上尾市自然学習館：各20部） ・桶川市（桶川市役所、市民活動サポートセンター、桶川市児童館、桶川市べにばなふるさと館、桶川市坂田コミュニティーセンター、桶川市駅前子育て支援センター、桶川市日出田子育て支援センター：各30部） ・川島町（川島町役場、川島町ふれあいセンターフラットピア川島、中央公民館、川島町子育て支援総合センター：各20部） ・北本市野外活動センター 30部、埼玉県北本自然学習センター50部

東京デザイン専門学校ビジュアルデザイン科3年生の制作物



イベント実施時の様子



外来植物駆除の様子



草木染体験の様子

3. 上尾市環境パネル展実施状況

- 自然再生地の認知度向上を目的として、11月6日（土）10：00～16：00にJR上尾駅自由通路にて開催された「上尾市環境パネル展」（主催：上尾市環境推進協議会）に出展しました。
- 昨年度の結果から、目を惹くポスターではあるが協議会の取組についてより深く知るための情報が不足していたため、改善策として荒川上流河川事務所のホームページや協議会のホームページにアクセスできるQRコードの設置、散策マップの設置、次回のイベント案内の設置（黄枠内）を行いました。また、不特定多数の方が展示を見に来ることが想定されたため、自然再生事業についてのWEBアンケート（青枠内）を実施しました。
- （次年度に向けた改善策）今回は、情報を詰め込みすぎ目的が薄れた傾向があったため、狙いを絞った展示と持ち帰りできるような資料の設置を検討することが考えられます。
- WEBアンケートの回答者数は残念ながら2名にとどまり、アンケートの実施方法についての課題が残りました。今回のような説明者がいない場合のアンケート実施方法についての改善（案）としては、自然再生事業について関心を持っていただき、アンケートにご協力いただけるようなパネル資料の構成やアンケートの設置位置の工夫、回答頂いた方にメリットがあるような工夫が挙げられます。



出展時の状況

2. 広報活動の実施結果

1. 看板の設置について

- 東京デザイン専門学校（2020年度）の成果物である、中池誘致の広告（看板）デザインを中池看板の背面に掲示しました。
- 看板の中には、11種類の生き物が描かれており、中池の生態系を紹介するデザインとなっています。

中池看板(表面)



中池看板(裏面)



作品タイトル
「中池のいきものたちを見つけてみよう！」

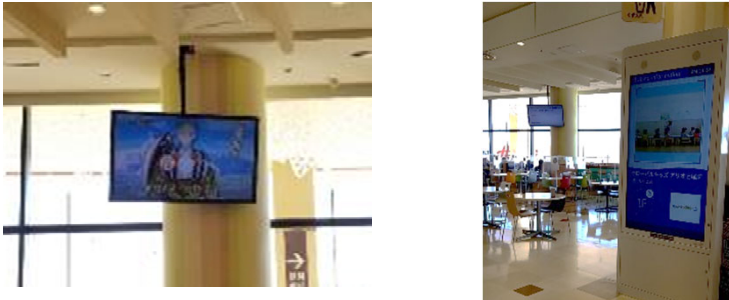
2. アリオ上尾での活動について

【経緯】

- 2021年4月：前年度のマーケットリサーチでやりとりをしたタリーズコーヒーアリオ上尾店より、施設側のアリオ上尾が協議会の取組に関心があると情報提供をいただき、ヒアリングを実施。SDGsに関する取組や、広域連携の観点から連携協働に関する打診を受けました。
- 2021年9月：過年度までに東京デザイン専門学校との連携協働により企画した広報物等をもって、アリオ上尾との連携可能性について打診、ヒアリングを実施しました。
- 2022年1月：東京デザイン専門学校との連携協働による企画のうち、「たえもんの冒険（迷路）」と「広報用動画」をアリオ上尾のフードコート内にて実施することです承を得ました。

【実施方針】

- 目的
 - ・持続的な維持管理活動を行うための担い手の確保に向けて、荒川太郎右衛門自然再生事業の認知度拡大を行います。
- 現状と課題
 - ・これまでに自然再生地を中心に普及啓発活動を展開してきたが、アンケート調査の結果から荒川太郎右衛門自然再生地の認知度が未だ低い現状にあります
- 対応策（方策案）：
 - ・荒川太郎右衛門地区自然再生事業の認知度を高めるために、ファミリー層が多く集まるアリオ上尾で東京デザイン専門学校（TDA）との連携により制作した企画をもとに普及啓発活動を実施します。あわせて協議会の活動やTDAとの連携協働の実施状況がわかる広報物を設置します。

プログラム名	ねらい・概要	設置場所
①フードコートにおける広報物「たろえもんの冒険(迷路)」の設置	フードコートを利用する主に親子を対象に、協議会の取組への関心を高めることをねらい、TDA制作の迷路と活動紹介を組合わせた広報物を設置する。	・フードコート内の親子でくつろぐことが可能な小上がりスペースやベビーカーおきば周辺のテーブル計20か所程度 
②プロモーション動画の放映	フードコートを利用する幅広い年齢層を対象に、協議会の取組への興味関心を高めるため、TDA制作のデジタルサイネージを活用した動画を放映する。	

2. アリオ上尾での活動について

【掲示物】

広報パウチ（A4両面）

はじめまして、
荒川太郎右衛門地区自然再生協議会です！

アリオ上尾から車で8分のところに、
自然豊かな場所があることをご存じですか？

さまざまな生物のいきいきとした様子が垣間みれる、
自然豊かな荒川太郎右衛門自然再生地へ、
お友達やご家族と訪れてみませんか？



荒川太郎右衛門自然再生地とは、

荒川太郎右衛門地区自然再生協議会
イメージキャラクター
「たらえもん」



外来種の駆除作業
を行っている
ボランティアの方々



荒川太郎右衛門自然再生地の名前の由来

「太郎右衛門」の名称は、江戸時代にこの地で運船をしていた、
「太郎右衛門」という人の名前からとったと言われています。
今もこの地域や橋の名前に受け継がれています。ここから自然
再生協議会の名前になり、キャラクターが生まれました。

荒川太郎右衛門自然再生地って、どんなところ？

かつての河川改修で、荒川の本流が直線になったとき、
旧流路として残った3つの池を中心とした場所です。

3つの池：上池・中池・下池

荒川太郎右衛門自然再生地で、やっていることは？

市民ボランティアや学校、企業や団体などが協力して、
外来種の駆除作業や荒川の草花の移植活動を行っています。

※ 只今、私たちの取り組みについて、オフボードにてパネルやプロモーション動画で紹介しています。
是非、お気軽にお立ち寄りご覧ください。

荒川太郎右衛門
自然再生地HP



協議会の取組紹介

For the next generation
次の世代に、引き継いでいくために。

荒川太郎右衛門地区自然再生協議会の紹介

荒川太郎右衛門自然再生地とは？

荒川中流域において、良好な自然環境が保たれる
「太郎右衛門」下流約4km区間に位置します。

かつては川が広がっていたこの場所は、
治水のため、①堤防の設置により河川の自然的な
姿が失われつつあるという課題があります。

荒川太郎右衛門自然再生地は、多様な生き物が
集まり、単なる自然再生地を超え、市民が
市民ボランティアを中心とした活動を行っています。

私たちが目指す、
荒川太郎右衛門自然再生地（イメージ）



私たちは、こんな取り組みを行っています。

● 市民ボランティアを中心とした活動



定期的な維持管理作業
ボランティアの皆さんが、定期的に
草花の移植や、外来種の駆除作業など
を行っています。

● 学校や企業・団体との連携・協働による活動



つばき池小学校の子どもたちによる
サクラソウの移植
つばき池小学校の子どもたちが、
サクラソウの移植を行っています。

広域イベント開催



エドワーズ池公園
エドワーズ池公園で、
自然再生地に関するイベントを開催しています。

地域の企業・団体による維持管理活動



地域の企業や団体と連携し、
自然再生地に関するイベントを開催しています。

TDAとの連携取組紹介

連携・協働事例紹介

東京デザイン専門学校 X
荒川太郎右衛門地区自然再生協議会

東京デザイン専門学校の学生たちとのコラボレーション

荒川太郎右衛門地区自然再生地を、より多くのみなさんに知っていただくため、
このたび、東京デザイン専門学校の学生とのみなさんに協力いただきました。

学生のみなさんには、「デザインによる問題解決」をキーワードに、
荒川太郎右衛門地区自然再生地のプロモーション企画に携わっていただきました。

ビジュアルデザイン科3年生によるプロモーション企画の取り組み

1 迷路（たらえもんのぼうけん）

※ 荒川太郎右衛門地区自然再生地を、より多くのみなさんに知っていただくため、
迷路に描かれたたらえもんを、オフボードに設置しました。



3月中旬～2月の末まで、採用されたプロモーション企画を実際にご覧いただけます！

2 プロモーション動画



※ 荒川太郎右衛門地区自然再生地を、より多くのみなさんに知っていただくため、
プロモーション動画を制作しました。

1 「たらえもんのぼうけん」の迷路を、オフボードの各テーブルに設置中。

2 プロモーション動画を各販売コーナーのデジタルサイネージと、
オフボードに設置中。

参加した学生たちの声



〇 グループワークで、自然再生地について、話し合い、
制作しました。
〇 自然再生地について、学びました。
自然再生地について、学びました。

たくさんの素敵なプロモーション企画がありました。ありがとうございました！



プロモーション動画



※ この迷路は、東京デザイン専門学校ビジュアルデザイン科3年生（2020年度）のデザインです。



より多くのみなさんに自然再生地を知っていただくため、
自然再生地に関するイベントを開催しています。



3. 維持管理活動（連携・協働）で実施した広報について

維持管理作業ボランティア募集

サクラソウ群落再生地への竹や外来植物の侵入抑制を目的とした維持管理作業を行うボランティアを募集しています！

たろえもん



竹林拡大の抑制と外来植物の除去活動

荒川のひろい河川敷で気持ちの良い汗を流してみませんか？

2021

12/12

日 小雨決行・荒天中止

作業内容：竹の伐採と外来植物の抜き取りや鎌を使った刈り取り作業

会場：荒川太郎右衛門自然再生地

集合場所・時間：本田航空(株)前広場9時30分 ※アクセスは裏面参照

参加費：無料

持ち物・服装：長袖、長ズボン、帽子、軍手、飲み物、マスク
※ノコギリ、鎌等の作業に必要な資機材は貸出します

申し込み方法：①氏名、②年齢、③住所、④当日連絡可能な電話番号を郵送、ファックス、メールにて下記の問い合わせ先へご連絡ください

申し込み締切：12月12日開催分は12月6日（月）午後3時まで

荒川太郎右衛門自然再生地って？

荒川太郎右衛門自然再生地では、荒川の旧流路において、かつてそこに存在していた豊かな生態系を取り戻すために、さまざまな整備や活動を実施し、湿地環境の再生を目指しています！

問い合わせ先

〒350-1124 川越市新宿町3-12

国土交通省関東地方地方整備局 荒川上流河川事務所内

荒川太郎右衛門地区自然再生協議会運営事務局

TEL:049-220-0145 / FAX:049-247-9850 / Email:ktr-tarou@mlit.go.jp

【主催】荒川太郎右衛門地区自然再生協議会

このチラシデザインの原案は、東京デザイン専門学校 ビジュアルデザイン科3年生(2019年度)のデザインです。

- 11月と12月の維持管理作業に一般への呼びかけを行った。11月は平日に実施し6名、12月は休日(日曜)に実施し24名が県内外から参加がありました。

【チラシ作成時の工夫点】

- ・「維持管理」ではなく「ボランティア」という用語を使用
- ・作業風景の写真を掲載
- ・作業内容を具体的に記載

【広報媒体の工夫点】

- ・ボランティアの情報を求める人が利用する関連サイトや大学のボランティア活動支援センターに情報を発信
- ・過去のイベント参加者にDMを発送

【アンケート結果（12月実施分）】

- ・ボランティア活動を知ったきっかけは、若年層（10-20代）の大半はWEB掲示板等を通じて取組を知り、40代以上では過去のイベントのリピーターであったり、知人の紹介等によるものが多い傾向でした。

- ・ボランティア活動に参加しようと思ったきっかけとして、ボランティア活動に興味がある（32%）、維持管理作業の内容（22%）、汗をかく活動ができる（14%）、自然再生の取組に興味があった（14%）と続きました。

特に、若年層（10-20代）では、ボランティア活動に興味があった、維持管理作業の内容がきっかけで参加した割合が高く、40代以上になると、ボランティア活動に興味があるに加え、汗をかく活動ができることに関心を持っている割合が高い傾向にありました。

- ・アンケート回答者全員が、次回以降も参加したいと満足度が高い傾向がありました。

⇒今後は、具体的な作業内容を示しながら、作業内容に応じたターゲットを明確にして、的確に情報が届くよう広報先についても検討する必要があります。

5. SNSを活用した広報

- 協議会Facebookにて、秋イベントの開催告知および実施報告、本田航空株式会社の協力による草刈りの実施、巡視の実施報告、大和ハウス工業株式会社および一般参加型の維持管理作業などについて紹介しました。

秋イベント開催告知

荒川太郎右衛門自然再生地
2021年10月1日

【イベント開催のお知らせ】
10月23日（土）（予備日24日（日））にイベント「荒川クリーン大作戦」を開催します。
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今後の状況により、中止の可能性があります。
詳しくは下記をご覧ください。
<https://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/arajo00524.html>

本田航空(株)による除草実施の紹介

荒川太郎右衛門自然再生地
2021年11月17日

今夏、本田航空（株）様にご協力いただき、荒川太郎右衛門自然再生地・中池エリアの除草を実施しました。
作業前は先も見通せない状況でしたが、大型機械を使っただけこんなにすっきりと先が見通せる状態になりました！
そこには昨秋に開催したイベントで参加者の皆さんが植えた荒川の草花の芽生えが見つかり、きれいな花を咲かせ、次世代へとつなぐたねが実っていました。
自然再生地で、さわやかな秋風を感じてみませんか。
#荒川 #太郎右衛門地区 #自然再生地 #桶川市 #上尾市 #川島町 #本田航空株式会社 #除草 #連携・協働 #秋の散策 #ユウガギク #メハジキ #SDGs



巡視の実施報告と大和ハウス工業(株)および一般参加型の維持管理作業実施の紹介

荒川太郎右衛門自然再生地
30分

1月19日に、次年度の維持管理内容を検討するため、委員の皆さんと事務局で現地視察を行いました。その際に、昨年11月に大和ハウス工業（株）埼玉支社と一般募集で集まっていた作業を行った場所の、その後の様子も確認してきました。
昨年11月に大和ハウス工業（株）埼玉支社から約150名の方に参加いただき維持管理作業を行った場所は、鬱蒼とした状況から太陽がさんさんと差し込む状況に変わりました。
また、昨年11月と12月には、定例の維持管理作業の一般募集を行い、計30名の方にご参加いただきました。春に芽生える植物の生育を促すために冬の間に日光をあてることを目的に刈り取ったヨシの運び出しなどを行っていただき、春に向けた準備が進んでいました。
自然再生地を維持していくためには、多くの皆さんのご支援が必要です。
ご協力のほど、よろしくお願いいたします。
#荒川 #太郎右衛門自然再生地 #桶川市 #上尾市 #川島町 #大和ハウス工業株式会社 #除草 #連携・協働 #ボランティア活動 #維持管理作業 #ヨシの運び出し #SDGs



本田航空(株)による除草実施の紹介とイベントの実施報告

荒川太郎右衛門自然再生地
2021年11月17日

7月に引き続き10月に本田航空（株）様にご協力いただき、荒川太郎右衛門自然再生地・中池エリアの除草を実施しました。
夏を過ぎて、外来植物や在来植物のツル類の背丈が伸びてきた頃に、またまた大型機械を使っただけ見違えるような草原となりました！
冬の間にたくさん太陽の光を浴びることで、翌春に芽を出す荒川の草花の生育を促すことにもつながります。
また、10月23日には、草刈りを行っていただいた広場にて、東京の原宿にある東京デザイン専門学校ビジュアルデザイン科と連携協働企画したイベントを開催することができました。
引き続き、多くの皆さんのご支援とご協力のほど、よろしくお願いいたします。
#本田航空株式会社 #荒川 #太郎右衛門地区 #自然再生事業 #桶川市 #上尾市 #川島町 #除草 #外来植物 #在来植物 #荒川の草花 #連携・協働 #東京デザイン専門学校 #ビジュアルデザイン科3年生 #草木染め #SDGs



6. 日本造園学会・学会誌「ランドスケープ研究」への投稿

●日本造園学会・学会誌「ランドスケープ研究」において『社会連携の最前線から』という投稿募集があり、これに荒川太郎右衛門地区自然再生事業の取り組みを投稿し、学会誌に掲載されました。

Journal
of the
Japanese
Institute of
Landscape
Architecture

ランドスケープ研究

特集

復興祈念公園 Memorial Park

vol.
85 01
April 2021
公益社団法人
日本造園学会

ISSN 1340-8984

連載 | 社会連携の最前線から

荒川太郎右衛門地区自然再生事業における社会連携の取り組み

Social cooperation efforts in Arakawa-Tarouemon nature restoration projects

中村 彰吾 Shogo NAKAMURA (株) 日本コン河川事業部
田邊 龍太 Ryuta TANABE (公財) 日本生態系協会教育研究センター
鬼頭 武彦 Takehiko KITOU 国土交通省荒川上流河川事務所河川環境課
渡辺 誠 Makoto WATANABE (株) 日本コン河川事業部
逢沢 英之 Hideyuki AIZAWA 国土交通省荒川上流河川事務所河川環境課

1. はじめに

「荒川太郎右衛門地区自然再生事業」(以下、本事業と称す。)は、自然再生推進法(2003年1月1日施行)に基づき、我が国で最初に登録された自然再生事業である。事業地は、一級河川荒川の中流部、河口から50.4km~54.0km右岸の約4kmの区間で、縦断勾配は1/1,000以下と緩やかであり、本来は蛇行した河川となる特性の場所である。河川改修により、堤防とショートカットした低水路の間に残された旧水路やその周辺の湿地環境を保全・再生するため、学識経験者、地方公共団体、地域住民やNPOからの公募委員、河川管理者(国)が参加する「荒川太郎右衛門地区自然再生協議会」(以下、協議会と称す。)を設立し、自然再生全体構想¹⁾に基づく様々な取り組みを進めている²⁾。

協議会の構成員であり、荒川を管理する荒川上流河川事務所は、この全体構想を踏まえ、国有地化された区域を対象に、事業実施者として比較的早期に実施可能な①旧水路の保全・再生、②湿地及び止水環境の拡大、③河畔林の保全・再生、④環境学習・維持管理等の具体的な取り組みを実施計画書³⁾にとりまとめ、事業を実施している。

現在、自然再生地の整備工事が2019年度で終了を迎えたところであり、今後は、これまでの「自然再生地の整備」から「自然再生地の管理・活用」へ、転換する時期を迎えている。本稿では、協議会運営事務局である荒川上流河川事務所及び、運営補助業務受託者の日本コン・日本生態系協会設計共同体より、本事業の社会連携の取り組みを報告する。

2. 社会連携の必要性

(1) 事業継続に向けた課題

環境省(2017)による全国の自然再生事業25事例を対象としたアンケート結果では、取り組み実施に係る課題として、「取組や維持管理の担い手が不足している」21/25事

例、「取組の資金が不足している」19/25事例、「実施者=事務局となる場合が多く、事務局の負担が大きい」18/25事例」と報告されている⁴⁾。これら課題は、本事業と共通するものが多い。本事業の継続に向けて、協議会が抱える課題は以下のとおり。

- ・多様な主体との連携に向けて本事業の認知拡大が求められる。訴求力ある本事業のアピールが必要である。
- ・約400haに及ぶ自然再生地の維持管理を、協議会委員だけで実施することは作業性に限界がある。維持管理の担い手を確保していくことが必要である。
- ・国の整備工事が終了し、今後は、管理・活用が事業の主眼となっていく。協議会活動の自立・持続性を担保するための資金面が必要である。

(2) 課題解決の方向性

本事業の今後の展開の方向性を図-1のロードマップ(案)に示した。2023年度より、管理・活用のステージへ移行していくため、多くの場面で社会連携が必要となる。例えば、環境モニタリングでは、外部協力者や市民による調査が考えられる。管理・活用では、担い手を確保するため、地域の市民・NPO、学校、企業等との連携が必要である。協議会の自立に向けて、イベント等の広報活動により認知度を高め、市民や企業に訴求力ある活動を継続することで、資金面で活動を支えるサポーターを得ることが出来る。こ



図-1 本事業のロードマップ(案)

のように、今後の本事業継続に社会連携は不可欠と考えている。

3. 具体の取り組み

協議会では、これまで本事業の認知拡大を目的としたHPやパンフレット等による広報、自治体イベントへのブース参加による本事業のアピール、担い手やコメンタリー発信を目指したオリジナルイベントの開催などを実施した。これに加え、社会連携に係る以下の取り組みを展開している。

(1) 企業団体等連携

参加型の保全管理を持続実施するため、活動資金や多人数の労力獲得が必要であり、企業団体等との連携は欠かせない。協議会では、マーケティングリサーチ⁵⁾を行い、流域の多様な企業団体等への情報発信や先方のニーズの把握・調整に基づく活動を行っている。具体的には、保全管理の道具や消耗品の購入費などの活動資金は(公財)サイサン環境保全基金の助成を、保全管理の労力獲得は、本田航空(株)、大和ハウス工業(株)埼玉支社、上尾ものづくり協同組合等との連携協働を得るに至っている。これまでの働きかけを通じて、企業団体等においても、社会貢献や社員研修、SDGsの目標「陸の豊かさも守ろう」等を達成するため、活動する場や相手を求めていることが伺える。引き続き、情報発信を広く行いつつ、先方のニーズや諸条件に応えることができる連携協働のプログラムをデザインし提案していく。



写真-1 企業との連携活動の例(100名規模の参加)

(2) 専門学校連携

マーケティングリサーチの一環として、協議会有志が毎年訪問している環境展「エコプロ2018」において、企業等と連携した活動成果や製品デザイン等の展示を行った。東京デザイン専門学校と縁を得て、2019年9月~10月の期間に協働講義を行った。具体的には、「本事業のプロモーション」というテーマ⁶⁾のもと、協議会による本事業オリエンテーションや現地視察会を行い、その後の課題制作を経て、成果報告会、表彰式と感謝状授与式を実施した。2クラス36名の学生は8グループに分かれ、イベントデ

ザイン、企業コラボ、絵本、すざろく、HPトップページデザインなど、斬新なアイデア・デザインの提案を得た。これらアイデアやデザインを様々な場面に活かしていくことが、本事業の魅力向上に繋がると期待している。

(3) 地域の小学校連携

小学校においては、地域の自然の教材化にあり自然や動植物に詳しい協力者を求めている。協議会では、小学校連携に当たり、同じ荒川中流域にある三ツ又沼ビオトープで展開されている「荒川の草花を育てようプロジェクト」を参考に、近隣の川島町立つばき北小学校に地域の自然への関わり方を提案し2019年度から同プロジェクトを開始した。このプロジェクトは、荒川本来の草地環境の再生を目指し、児童が荒川に生育する在来の野草を育て、日々観察する中で最終的に種子の採集を行い、集めた種子を協議会に手渡すことが一連の関わりとなる。学習活動の観点からは、地域の自然である荒川を身近に感じる。地域の自然の保全再生に日常的に参加するといったねらいが加わる。協議会では、野鳥の提供の他、本事業やプロジェクトの趣旨についての児童への講話、草花の育成の指導、児童が自然再生地に野外活動に訪れた際の指導や安全管理などを通じて、学習活動を支援している。こうした学習活動の効果は、子どもたちの無畏な可能性と、未来のサポーター育成、子供から親世代への情報発信を期待することができる。

4. おわりに

本事業の目的は、旧水路やその周辺の湿地環境を保全・再生することである。限られたリソースで事業継続していくために社会連携は不可欠なものと考える。新たな連携や組み合わせの多様化を図ることが、新たな価値を生み、魅力を高め、事業継続につながることを期待している。

謝辞：本事業にご協力戴く全ての方々に感謝申し上げます。

補註および引用文献

- 1) 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会(2006)：荒川太郎右衛門地区自然再生事業・自然再生全体構想
- 2) 荒川上流河川事務所：協議会等会議資料 <https://www.ktr.mlit.go.jp/arakawa/index026.html> 2020.7.28 参照
- 3) 国土交通省荒川上流河川事務所(2011)：荒川太郎右衛門地区自然再生事業・実施計画書
- 4) 環境省自然環境局自然環境計画課(2017)：全国の自然再生事業の取組状況について https://www.env.go.jp/nature/saisei/law-saiseisenmon/h28_0100_siryoutu.pdf 2020.7.28 参照
- 5) パートナーとなる企業・団体を発掘するため、協議会から潜在的協力者へアプローチする本協議会の活動
- 6) 対象者、使用メディアは限定せず自由な発想を求めた

ランドスケープ研究 85(1), 2021

57

3. 2022年度の広報活動方針

1. 広報WGの設立経緯

【第26回協議会】（平成22年11月27日）でワーキング設立についての意見をうけて、設立にむけた検討を開始。

主旨：事業の認知度がまだまだ低く、維持管理作業を始めるにあたり、より多くの人に作業に参加してもらえるようPRを行う必要があり、早急に広報ワーキングを立ち上げる必要がある。



【第27回協議会】（平成23年3月5日）でワーキング設立を承認。

広報の対象は、まずは地元の人とする。



【第29回協議会】（平成23年10月29日）で内容・設立承認

1) 広報WGで検討・実施する内容（案）

①今すぐできる広報の検討と試行

例えば、利根運河協議会のフットパスマップを参考にしたマップ作成、新聞広告、工事見学会 等

②全体構想で位置づけている、普及啓発・情報公開専門委員会設立に向けた検討

全体構想で位置づけている、普及啓発・情報公開専門委員会設立に向けた検討を行い、協議会に案を提案する。
専門委員会の設置目的は「事業の発展的な持続を目的とし、地域や事業をアピールしていくための基本方針、しくみ、体制、行動計画等を検討する」こと。

2) 広報WGの検討条件

①広報の目的は、普及啓発・情報公開専門委員会の目的として全体構想に示された「事業の発展的な持続」であり、事業について広く知ってもらい、事業の応援をしてもらえるファンを創出し、将来的には維持管理への参画者の増加や資金確保につなげていけるものとしたい。

②広報WGのメンバーは最初は協議会委員からの応募者で構成することとし、広報ワーキングの中で外部の方の参画についても協議していくこととしたい。

*WG内で協議会委員以外の参集者が必要と考えられた場合は、適宜メンバーに追加することが想定される。(例：観光・商工分野の官民の関係者等)

※赤字・太字・下線は今回修飾

1. 広報WGの設立経緯

普及啓発・情報公開専門委員会

事業の発展的な持続を目的として、地域や事業をアピールしていくための基本方針、しくみ、体制、行動計画などを検討する。

※「荒川太郎右衛門地区自然再生事業 自然再生全体構想」P61より

第3節 役割分担

役割分担（案）

太郎右衛門地区の自然再生事業実施計画を具体化し、目標の実現に向けて整備・維持していくためには、各主体が事業実施者となり自然再生実施計画を作成し、相互に調整を図りながら積極的に事業を推進していく必要がある。

さらに、実施者は、事業の各段階においても他の主体の参画と協働を得ながら取り組んでいくことが重要である。そのための仕組みとして必要に応じて専門委員会等を組織することも有効である。

自然再生全体構想を踏まえ、事業の実施者はそれぞれの事業について協議会と協議のうえ「自然再生実施計画（案）」を作成する。
「自然再生実施計画」に基づき事業を実施する。

【実施者案】

- ・河川管理者
- ・自治体
- ・教育機関
- ・大学・大学院
- ・NPO
- ・企業
- ・その他

【施策案】

- ・自然再生整備
- ・環境学習等の利活用（施設整備、学校やNPOとの連携他）
- ・生活環境保全
- ・維持管理活動
- ・普及啓発、広報活動
- ・その他

自然再生地を守り、育てるため、多くの主体が協議会に参画・協働し、様々な活動を展開していく。

【実施者案】

- ・河川管理者
- ・自治体
- ・教育機関
- ・公募委員
- ・大学・大学院
- ・NPO
- ・企業
- ・その他

【施策案】

- ・モニタリング、評価
- ・生活環境の保全
- ・維持管理
- ・清掃活動
- ・広報、情報発信
- ・環境学習等の活動
- ・各種調査・研究
- ・その他

自然再生全体構想

Step1

自然再生事業実施計画

Step2

自然再生整備中

Step3

自然再生整備後

作成

協議

情報提供

意見

情報提供

意見

荒川太郎右衛門地区自然再生協議会

付託

提案

専門委員会

生態系モニタリング専門委員会

当地区の自然環境の状況把握、整備効果の評価を目的として、以下の事項を行う。

- ・モニタリングの手法、評価の手法の設定
- ・評価指標の設定
- ・モニタリング調査計画の立案、指導、助言
- ・自然再生目標に対する整備後の効果分析

維持管理・環境管理専門委員会

事業実施中、実施後における様々なインパクトに対して、当地区の良好な状態を維持することを目的とし、具体的な管理計画、維持管理を推進するしくみ、体制、行動計画等を検討する。

自然環境学習専門委員会

自然について体験し、学ぶことを通じて、当地区の環境を守り育てることを目的とし、具体的な整備計画、自然環境学習を推進するしくみ、体制などを検討する。

普及啓発・情報公開専門委員会

事業の発展的な持続を目的として、地域や事業をアピールしていくための基本方針、しくみ、体制、行動計画などを検討する。

エコロジカル・ネットワーク専門委員会

荒川バイオトープ・三ツ又バイオトープ等の自然の拠点をつなぐ縦軸のネットワークや、江川流域・近隣都市公園等の周辺地域をつなぐ横軸のネットワークと太郎右衛門自然再生地とのエコロジカル・ネットワークの検討を行う。

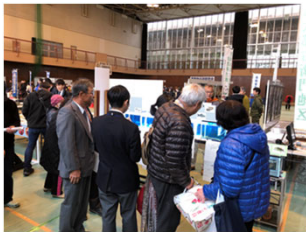
太郎右衛門地区自然再生事業の役割分担のイメージ

61

2. これまでの活動の成果と課題

分類		活動内容と実績		目的	成果と課題	
ソフト	イベント	地元住民（子ども）対象のイベント ＝秋イベント	・2012～2018、2020・2021 毎年秋にイベントを1回実施。 ※2013のみ5月と秋の2回実施 ※2019は東日本台風直後のため中止	・自然再生地・事業の認知度の向上と親世代の維持管理への参画	・2021を除き参加者は多く内容もおおむね好評で、マスコミ等への掲載を通じたアピール性も高く、近年はTDAとの連携促進にもつながっています。（2021は緊急事態宣言解除直後で広報期間が短かった） ・参加履歴のある方の維持管理への参画例はほとんどありません。 ・企画内容によっては資機材準備に費用を要します。例年、サイサン環境保全基金を活用していましたが、2021はこれを見送ったため、2022から再度10年程度の活用ができる可能性があります。	
		自治体イベントへの出展	・2014～2021 8年間で上尾市、川島町、桶川市、熊谷市のイベントに合計28回出展。 ※熊谷市は2018に臨時で出展	・自然再生地・事業の認知度の向上、自治体との連携促進	・生物展示用の展示ブースはおおむね好評ですが、来訪者の現地イベント・維持管理への参画にはあまりつながっていません。 ・桶川西高や川島町生涯学習課などとの連携促進につながっています。	
		ミドリシジミ観察・下池植生管理	・2016～2017、2019 ※2018は雨天中止、2020・2021はコロナで中止	・事業効果（ミドリシジミ）アピールと外部協力者による維持管理（ハンノキ周りの除草）の実施	・参加者数は増減ありますが内容はおおむね好評で、維持管理の労力としても大きいものでした。 ・開催に要する費用は保険代のみですが、時期的に雨天となる場合が多く、中止になるリスクが高い企画です。	
		散策イベント	・2018～2019 合計5回実施 ※2018年6月は雨天中止、2020・2021はコロナで中止	・自然再生地・事業の認知度の向上（「常に何かやっている場所」のイメージを作る）	・参加者数は増減ありますが（4回は事前申し込み無しで実施）、内容はおおむね好評でリピーターも現れ、一部の方は維持管理へも参画頂きました。 ・開催に要する費用は保険代のみですが、対外的なアピール性はやや弱い企画です。	
		太郎・江川・三ツ又の3地区合同観察会	・2017～2019、2021（4月に実施） ※2015は雨天中止、2020はコロナで中止	・荒川中流域のエコロジカル・ネットワーク形成の促進	・参加者にはおおむね好評で毎回ほぼ定員（20人弱）に達しますが、エコロジカル・ネットワークや協議会の活動への直接的な寄与にはつながっていません。 ・つばさ北小学校の活動において、江川のサクラソウを太郎右衛門地区に移植する活動につながりました。	
	その他	ホームページやSNSを活用した広報	・2013.8～ ホームページ開設 2021.4～ ホームページ改訂 ・2016.11～ Facebook開設 ・2019～ 荒上SNSを自治体SNSでリツイート	・自然再生地・事業の認知度の向上、イベント等の告知	・HP等を通じたイベントや維持管理への参画例はほとんどありません。 ・TDAとの連携促進につながっています。 ・事業への協力者をアピールすることが可能です。	
		イメージキャラクターの作成	・2013.12作成（埼玉県内高校生の公募）	・自然再生地・事業のイメージアップ	・各種チラシ等に使用しています。	
		配布物	・パンフレットを2013年度に作成、2021.3に改訂（協議会HPに掲載） ・マップリーフレットを2018年度に作成	・自然再生地・事業の認知度の向上	・イベントやマーケットリサーチに活用しています。 ・今後の改訂作業や印刷の費用確保の方法が未定です。	
	ハード	看板	現地看板	・2012.2設置（横堤） ・2019.1設置（各所） ※2012.2に横堤に設置した看板は2019.1に置き換え。2021から裏面にTDAデザインを掲載。	・自然再生地・事業の認知度の向上	・イベント時に活用しています。 ・洪水等による損傷時に修繕費用が必要となります。

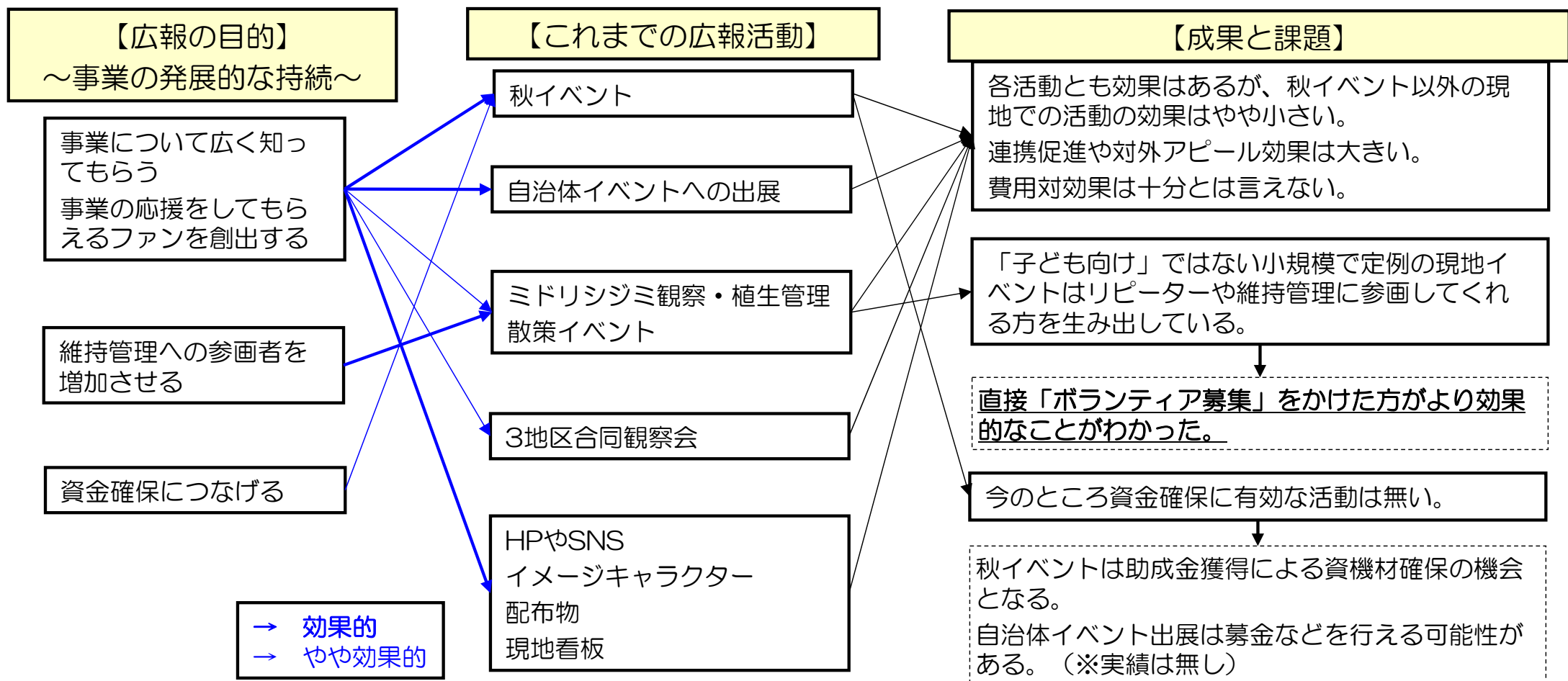
2. これまでの活動の成果と課題

分類		活動内容と実績	
ソフト	イベント	地元住民（子ども）対象のイベント ＝秋イベント	 2020/10/18
		自治体イベントへの出展	 2019/11/23
		ミドリシジミ観察・下池植生管理	 2019/6/22
		散策イベント	 2019/5/18
		太郎・江川・三ツ又の3地区合同観察会	 2021/4/3

分類		活動内容と実績	
ソフト	その他	ホームページやSNSを活用した広報	
		イメージキャラクターの作成	たろえもん  オリジナル版 3D版 ※埼玉県の高校三年生(2013)の作品です。「荒川太郎右衛門地区」と聞いて思い浮かんだ「侍」のイメージを残しつつ、「再生」というキーワードから、『再び生まれる＝新しく生まれる＝生まれる・生み出す＝卵』という発想から、制作されました。
		配布物	
ハード	看板	現地看板	

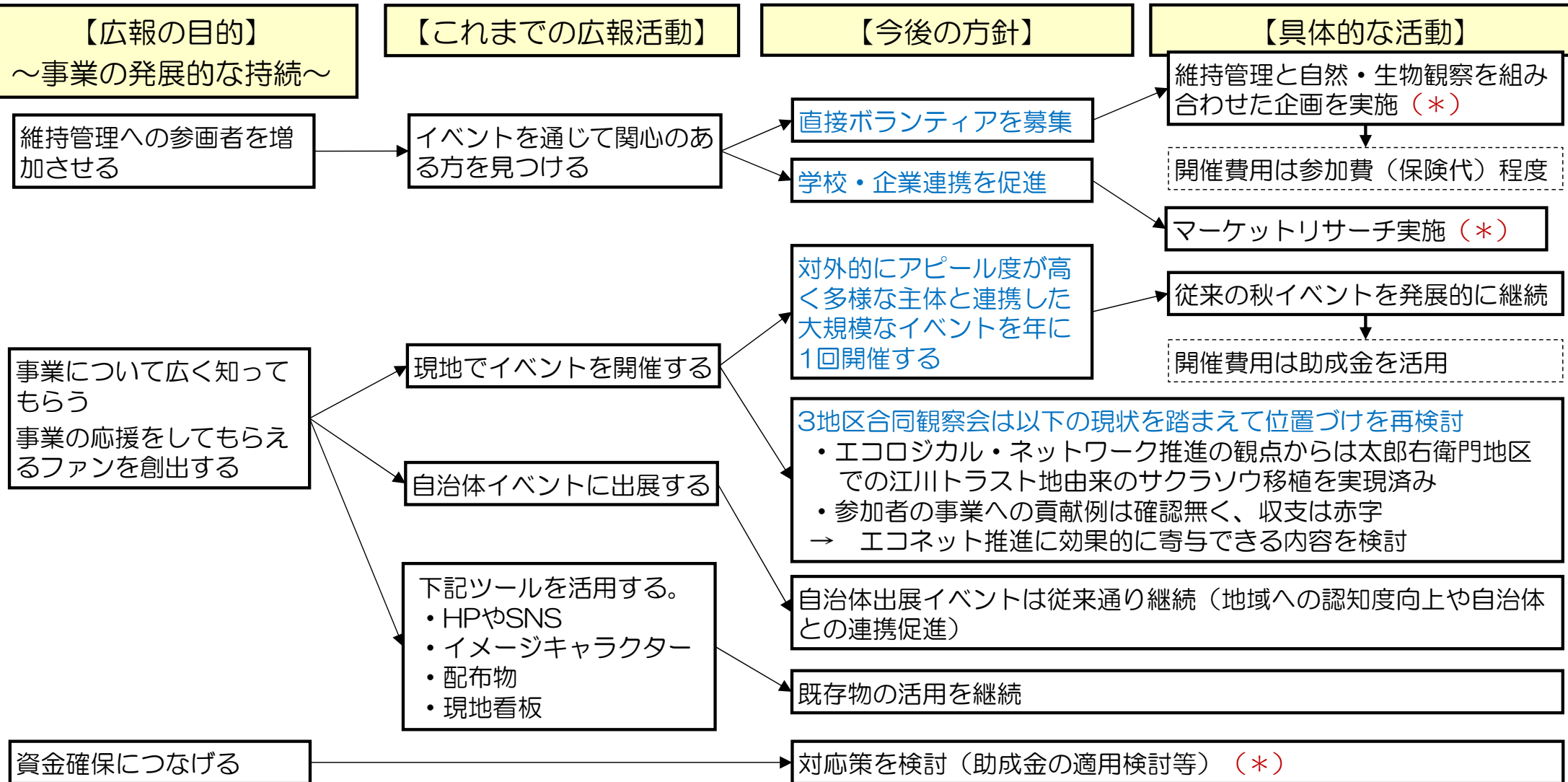
3. 2022年度の広報活動方針

- これまでの広報活動は、WGの検討条件にあるように「事業の発展的な持続」のために「事業について広く知ってもらい、事業の応援をしてもらえるファンを創出し、将来的には維持管理への参画者の増加や資金確保につなげる」ことを目的としていました。
 - ・その結果として、イベントで維持管理を体験して頂いたり、イベント参加者が維持管理活動に参加してくれる例が出てくるなどの成果が見られた一方で、イベント開催にかかる労力・費用に対しての効果は十分とは言えない状況です。
 - ・また、助成金の活用以外に資金確保につながるような成果は出ていません。
 - ・一方で、維持管理活動については、直接的に「ボランティア募集」をかけることで一定数の参加が見込めることが、今年度の維持管理・環境管理専門委員会の活動で確認できました。また、同委員会で実施しているマーケットリサーチの結果、企業・学校等との連携による現地の管理・活用が進んでいます。



3. 2022年度の広報活動方針

- 広報の主たる目的は、「維持管理」への参画者を増やすこととしています。
- 今後の「維持管理」は、従来からの外来種除去等に加え、中池を中心に外部協力者と協働した環境創出の取り組みが必要です。そのための体制・仕組みは維持管理・環境管理専門委員会を中心に検討する一方で、その促進に必要な広報は当WGで取り組む必要があります。
- このようなことを踏まえ、今後の広報活動としては、以下のようなことが考えられます。これをもとにご検討ください。



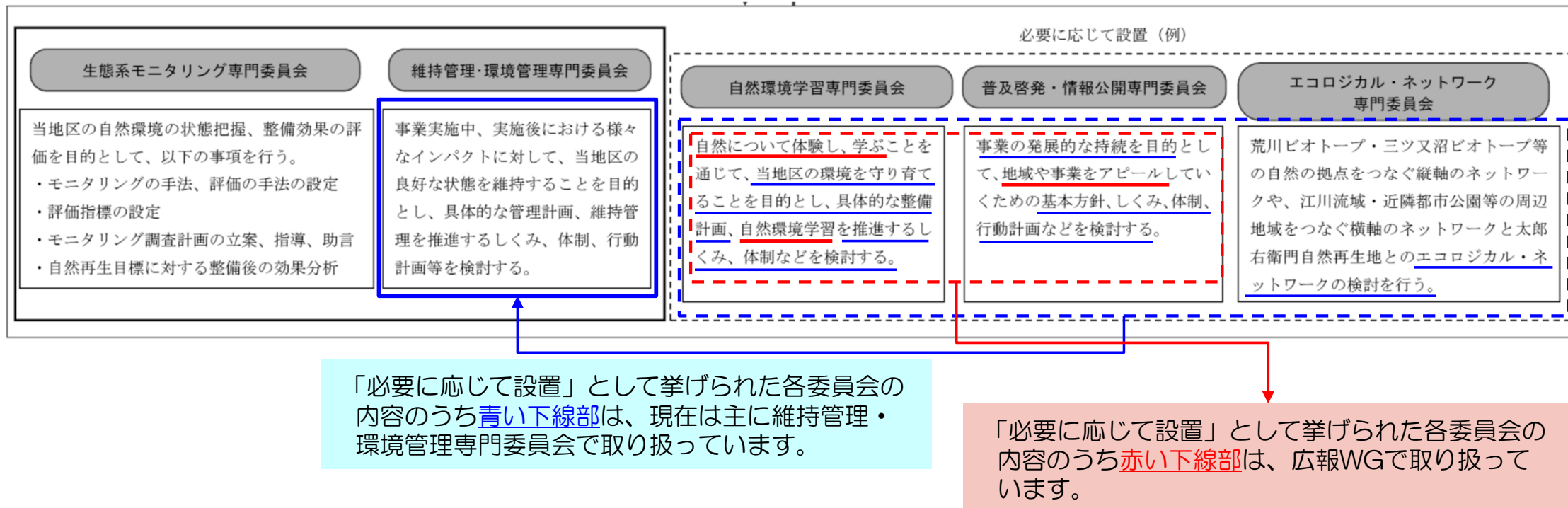
上記以外に考えられる内容があれば追加して検討・実施

*：維持管理・環境管理専門委員会で実施

4. 今後の広報WGの体制について

- これまでの広報活動は、イベントの開催やインターネットツールの活用、パンフレット類の制作・配布、現地看板の設置などを行ってきました。
- 広報WGの検討条件は「事業について広く知ってもらい、事業の応援をしてもらえるファンを創出し、将来的には維持管理への参画者の増加や資金確保につなげていけるもの」というものですが、こうした内容やそのための体制・計画などについては、現在は既存の「維持管理・環境管理専門委員会」で維持管理や環境管理と一体的に検討・実施されています。
- 一方、「普及啓発・情報公開専門委員会」の具体的な活動のうちの「地域や事業をアピール」するものと、「自然環境学習専門委員会」の具体的な活動のうちの「自然体験」「自然環境学習」については、広報WG・イベント実行委員会イベントとして取り扱っています。

※「荒川太郎右衛門地区自然再生事業 自然再生全体構想」P61より



4. 今後の広報WGの体制について

- これまでの広報活動は、広報WGで基本方針を設定した上で、イベント実行委員会やHP勉強会などの実行部隊が具体的な内容を検討・実行してきました。
- しかし、現在はWGを含めて協議会全体の委員が減少傾向にあり、各組織の差異が小さくなっています。
- 実施者である荒川上流河川事務所としての事業はR4年度に完了となることもあり、今後の協議会運営はなるべく身軽で効率的なものとしていく必要もあります。
- 以上のことから、まずは広報WGはイベント実行委員会へ一体化することを提案します。
この提案が良ければ、次回の協議会に提案し、了承されれば2022年度からその体制で活動したいと考えます。
なお、大きな視点から必要となる今後の広報活動は、他の委員会とも深く係わるため運営委員会で取り扱っていきます。

現在の協議会組織

※公的機関の委員を除く

※1名の新規入会受理中

	氏名	所属組織					備考
		運営	生態系	維持管理	広報	イベント	
学識委員	浅枝 隆（会長）	●	●	オブザーバー	座長	●	
	三島 次郎（副会長）		委員長				
	堂本 泰章	●	副委員長	委員長	●	●	
	小川 早枝子	●	●	●	●	●	
一般委員	荒木 三郎		●			●	会計監査
	大森 秋郎		●	●		●	
	川島 秀男	●	●	副委員長	●	委員長	
	川村 ヒサオ	●	●	●	●		
	木内 勝司		●				
	木ノ内 勝平						
	堀口 長治						
	川田 淳						
	竹谷 肇						
	宮川 午太郎			●			
	浅井 敬三	●	●	●	●		（退会申出受理）
	浅川 清司				●		
	天沼 正明						
	北村 文子	●			●		会計監査
	神山 肅						
	柴田 弘			●		●	
	菅間 宏子	●	●	●		●	
	高橋 敏						
	松村 利夫		●		●		
	長畑 直和						

→ 一体化を提案

5. 2022年度のイベント計画（案）

◆ 協議会主催イベント

- ✓ 秋イベント：10月1日（土）に実施 ※予備日10月2日（日）

⇒定例の年に1度の大規模イベントとして継続します。

⇒企画については、東京デザイン専門学校との協議等を踏まえて検討する必要があります。

⇒日程については桶川西高校の予定を踏まえて調整し、科学部による魚類展示も検討します。

- ✓ 維持管理＆観察会（旧：散策イベント）

⇒維持管理への参画者を増加させ、参画頂いた方に持続的に協力頂くために、維持管理作業と自然・生物観察を組み合わせた企画を実施します。

⇒4月：芽吹き時期なので除草作業効果が高い＋春開花の植物を観察。9月：雑草が多く人手が必要＋観察会は昆虫を対象。12月：上池のオギ除去で人手が必要＋観察会は鳥類を対象。

- ✓ ミドリシジミ観察会：6月18日（土）に実施

⇒将来の市民モニタリングにつながる内容であるため、継続します。

- ✓ エコロジカル・ネットワーク推進のための企画（旧：3地区合同観察会）

⇒3地区で活動している方の相互の活動の理解及び連携・協働に寄与する内容を企画します。

⇒各地区の活動者による合同現地視察などが考えられます。

◆ 自治体イベントへの出展

- ✓ 自治体イベント：【仮】4月29日（祝）川島町、【確定】5月8日（日）桶川市、【仮】11月（上旬）上尾市、【仮】11月23日（祝）川島町

⇒地域への認知度向上や自治体との連携促進のため、従来通りの参加を予定します。

⇒2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、上尾市パネル展のみの出展となりました。

- ◆ 民間主催イベントへの協力 現時点で具体的な企画はありませんが、依頼があれば適宜協力します。

<2022年度イベント計画（案）>

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
イベント	協議会主催	13日（水） ：維持管理＆観察会		18日（土） ：維持管理（下池）＆観察会（ミドリシジミ観察）			7日（水） ：維持管理＆観察会	1日（土） ：秋イベント（予備日2日）		7日（水） ：維持管理＆観察会			
	自治体主催	29日（祝・金） ：川島町「かわしまはるかぜウォーク」	8日（日） ：桶川市「おかげわ春のふれあいフェスタ」						上旬 ：上尾市パネル展 23日（祝・水） ：川島町農業商工祭				
	民間主催	適宜実施											
維持管理計画 予定日		4/13	5/18	6/15 6/18	7/13	8/3	9/7	10/20	11/9	12/7	1/11 1/18	2	3
実施場所	上池		○	○			○		○	○			
	中池	○	○	○			○	○	○	○	○（11日）		
	下池			○（15、18日）			○						
	全体（巡視）			現地状況に応じて実施する可能性があります。							○（18日）	25	

6. 今後の活動周知の取組について

- 秋イベントは、十分な周知期間をとったスケジュールを立て、対象に応じた活動を展開します。
 - 維持管理作業は、「ボランティア活動」という用語を使用し、作業内容を具体的に示す工夫をします。また、アンケート結果からボランティア情報が掲載されたWEBサイトへの掲載が効果的であることが分かったため、今後も積極的に活用します。
 - 配布資料等は、協議会の活動や連携協働による取組について、写真やイラスト等を使用して、見やすさ・分かりやすさを工夫します。制作物は、対外的に取組紹介を行う際に、積極的に活用します。
- 今年度の活動状況を踏まえて、次年度以降の工夫点を提示します。その他、改善点、実施場所や媒体先のアイデア等があれば、ご提示・ご検討をお願いいたします。

取組内容	課題	取組みにあたっての工夫点	留意点
秋イベント	・より多くの参加を募る	■記載内容 ・具体的な実施内容を記載 ■告知場所・媒体 ・流域住民が利用する自治体広報誌に掲載⇒埼玉県広報誌「彩の国だより」、<u>桶川市・上尾市・川島町の市町報</u> ・より広く周知が可能なメディアへのリリース⇒<u>新聞イベント欄</u> ・ファミリー層の利用が多い商業施設での情報発信⇒<u>アリオ上尾</u>等 ・対象としている親子の利用が見込まれる公共施設にチラシを設置⇒<u>子育て支援センター、児童館、埼玉県自然学習センター</u>等 ・無料で広報が可能なWEB掲示板の活用⇒<u>EICネット、CANPAN、いこーよ</u>等	・スケジュール立案に当たり、新聞イベント欄は約1か月前、自治体広報誌は約2か月前に締切であることに留意。 ・市町によっては県の広報誌と同内容の掲載は不可 ・参加された方々が維持管理に参画するよう、ボランティア活動の次なる予定など情報発信の仕方に留意。
維持管理作業	・予定される活動をイメージさせる ・ボランティアをしたいと思っている方々に情報が届ける	■記載内容 ・ボランティア活動であることを記載 ・作業内容を明確に記載し、イメージしやすい写真等を使用 ■告知場所・媒体 ・12月の維持管理作業時に参加者の多くが利用していたWEB掲示板に掲載⇒<u>activo、yahooボランティア、CANPAN</u>等 ・若年層の獲得のため大学ボランティアセンターでチラシを設置⇒<u>S大学ボランティア活動支援センター</u>等 ・過去のイベント・ボランティア活動参加者に定期的なかかわりを促すための情報発信⇒DM発送 ・ボランティア希望者の利用が見込まれる公共施設にチラシを設置⇒<u>市民活動サポートセンター</u>等	
配布資料等	・協議会の活動や連携協働の取組を端的に伝える	■記載内容 ・協議会の活動や連携協働の取組について、簡潔にとりまとめた配付資料やパネル等の制作	・写真やイラスト等を使用し見やすいデザインに留意。

7. 自然再生事業の社会的意義のアピールについて

- 「事業の発展的な持続」のためには、本事業の社会的意義をわかりやすくアピールして、広く関心を集めることが必要です。
 - 全体構想では、荒川中流域のエコロジカル・ネットワークの核として太郎右衛門自然再生地を位置付けています。
これまで、江川サクラソウトラスト地から太郎右衛門自然再生地へのサクラソウ等の移植や、ミツ又ビオトープを含めた情報交換等を進めてきました。
 - 一方で、鴻巣市を中心にコウノトリをシンボルとした「エコロジカル・ネットワーク」の取り組みが展開され、全国各地において、川と海とのつながりをテーマにした活動も展開されるようになっていきます。
- ⇒ こうした時代や社会の背景もふまえ、太郎右衛門自然再生地は、荒川中流域のエコロジカル・ネットワークの核であるとともに、「コウノトリ」や「川が海へとつながる」ことを、伝えるべきポイントとして意識をして、アピールしていくことが重要と考えられます。
- ⇒ 以上の視点で、下記に挙げる例を参考に、今後の広報として必要な取り組みについてご検討ください。

<世界的な課題>

- SDGs(持続可能な開発目標)
- 生物多様性保全
- 海洋プラスチック問題
- 地球温暖化・気候変動対策

【自然再生事業の社会的意義のアピールの視点(例)】

- ・荒川中流域におけるより広域的な取り組み
コウノトリ等の視点
- ・荒川下流域とのネットワーク化の取り組み
- ・東京湾とのネットワーク化の取り組み
ウナギ類等の回遊性生物や海洋プラスチックゴミ等の視点
- ・グリーンインフラやCO2削減の視点

など

【エコロジカル・ネットワーク】
・上下流
・堤防内外地
・山、川、海、(里)

ウナギの
回遊性

コウノトリ

【自然再生事業】
(太郎右衛門)

<湿地環境の保全再生>
地域特有の生物の
生息・生育環境の
保全・再生

【環境学習】

【グリーン
インフラ】

雨水貯留
浸透施設

水辺の
賑わい施設



荒川流域エコネット地域づくり
アクションプランの対象エリア



海洋ゴミ対策の事例
(日本財団・環境省共同事業)

自然再生事業をとりまく背景(イメージ)

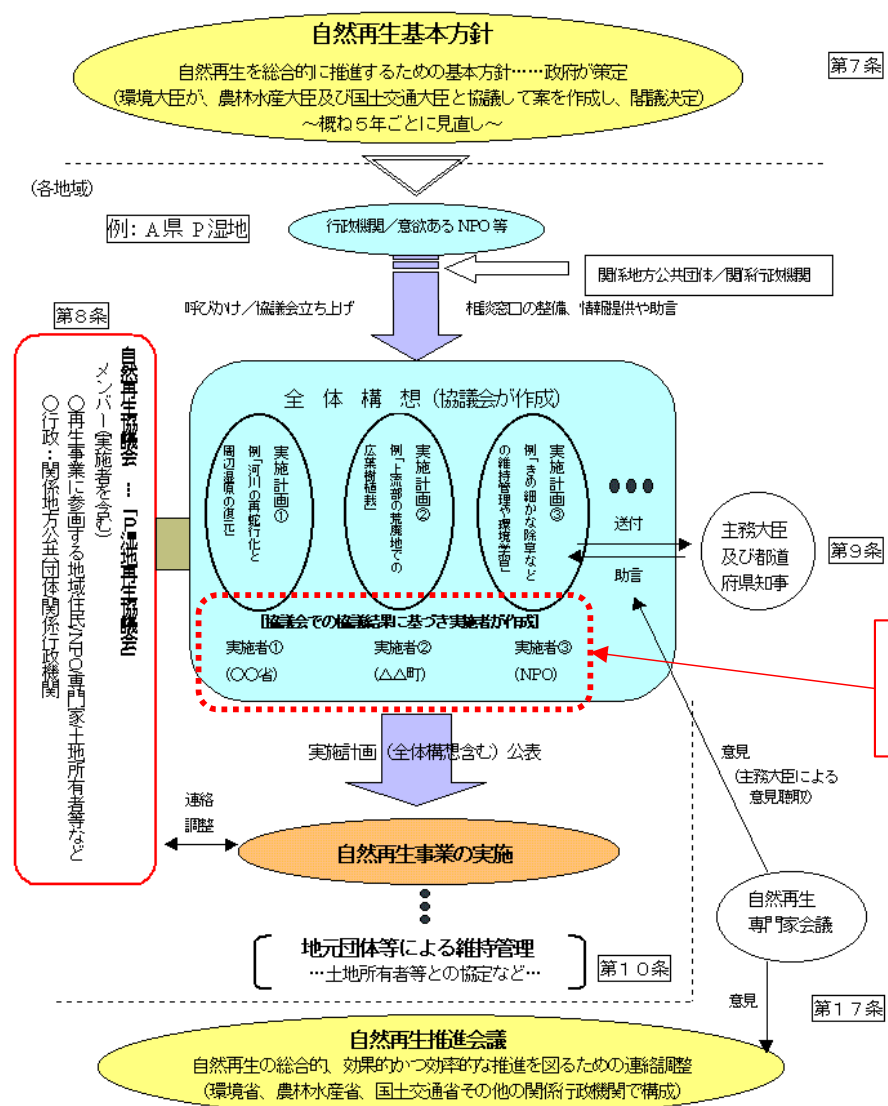
4. 協議会のHP・SNS等の運営方針

1. 協議会と荒川上流河川事務所の関係の確認

●協議会における荒川上流河川事務所の位置づけは、以下のようになっています。

- ①荒川上流河川事務所長が「委員」として参画しています。
- ②荒川上流河川事務所が「運営事務局」を担っています。
- ③荒川上流河川事務所が「実施者」となっています。（※制度上、複数の組織等が「実施者」となることも可能です）

自然再生推進法の仕組み(環境省HPより)



協議会設置要綱より

第7章 事務局
(事務局)
第17条 協議会の会務を処理するために荒川上流河川事務所に事務局を設ける。

当事業における「実施者」は荒川上流河川事務所のみ

2. 協議会SNSと荒川上流河川事務所SNS

- 協議会ではフェイスブックを開設しており、臨機の発信が可能です。
- 荒川上流河川事務所におけるフェイスブックやツイッターにおいても協議会の活動を発信していますが、国の機関であるため臨機の発信や民間との連携活動の発信などが難しい場合もあります。
- このため、SNSについては協議会のフェイスブックを発信の主体とし、荒川上流河川事務所のものは必要に応じて利用する形が望ましいと考えられます。（※川島町・桶川市・上尾市の各自治体のSNSもイベント広報の際に協力を頂いています）
- また、現状では協議会フェイスブックの発信も事務局で対応していますが、発信担当者を決めることが望ましいと考えられます。
- なお、各委員が個別に活動状況をSNSで発信することは問題ありませんが、外部参加者等を含む写真の利用には注意が必要です。

荒上ツイッターでの協議会活動の紹介例



国土交通省 荒川上流河川事務所 @mlit_araka... 2021年11月18日 ...
10月23日(土)に #外来種 の抜き取りと草木染めを行うイベント「荒川クリーン大作戦」を #荒川太郎右衛門自然再生地 で開催しました。#東京デザイン専門学校 と #産学共同プロジェクト でイベントを開催。あわせて #桶川西高校 による水族館の出張展示も行われました。



1



11



協議会フェイスブックの投稿例



荒川太郎右衛門自然再生地

2021年11月17日 · 🌐

【ボランティア募集のお知らせ】

11月10日(水)、12月12日(日)に竹の伐採や外来植物の抜き取り作業を実施します。荒川のひろーい河川敷で気持ちの良い汗を流してみませんか？

詳しくは下記をご覧ください。

<https://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/arajo00524.html>



3. 協議会HPと荒川上流河川事務所HP

- 協議会の設置要綱において、協議会の情報は荒川上流河川事務所のホームページで公開することとされています。
- しかし、現在は協議会のホームページが作成されていることから、本来はこちらを情報公開の本体とすることが望ましいと考えられます。
- 課題は、①協議会HPに要綱などの基本情報を取り込んで構成を更新する必要があること、②協議会の設置要綱を改正する必要があること、などが挙げられます。

協議会設置要綱より

(公開)

- 第14条 協議会の会議および専門委員会は、原則公開とする。
- 2 協議会の会議および専門委員会の開催について、国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所（以下「荒川上流河川事務所」と称する）ホームページでの公開を行うとともに、記者発表を行う。
- 3 協議会の会議および専門委員会の資料は、荒川上流河川事務所ホームページでの公開を行う。
- 4 協議会の会議および専門委員会の議事録は、要旨をとりまとめて議事要旨とし、荒川上流河川事務所ホームページでの公開を行う。

荒上HPの 協議会ページ

荒川太郎右衛門地区自然再生事業

→ イベントのご案内

【イベント日程変更のお知らせ】1月15日（土）に予定していた「自然再生地の見どころ発見！ツアー」は、3月12日（土）に開催する「クイズ&スタンプラリー」に変更となりました。

→ イベントの開催状況

→ 概要

→ 設置要綱

→ 自然再生全体構想

→ 実施計画書

→ 協議会委員募集のご案内

→ 会議

→ 生態系モニタリング報告書

→ イメージキャラクター

→ 現地案内情報

→ 定点観測

協議会HP(トップページ)

